

引出物

結婚式に出席していただいた方への感謝の印として、また、当日の記念として贈る引出物。何より贈られる側に立って、心のこもった品を選ぶ心配りも大切です。

◆かつての馬を贈る習慣が引出物の起源！

引出物の由来としては、物のない時代に食べ切れないほどのごちそうで客をもてなしたのが始まりとされています。その一方では、納屋から引き出した馬を持ち帰ったからという説も…。

本膳料理が主体だった頃は、引出物に載せて出していた引出物も、最近ではあらかじめ各席に配っておいたり、披露宴終了後に渡したりと様変わりしてきています。

◆重くない、かさ張らない、手軽に持てるものが主流

引出物費用は関東で約5000円程度、関西で6000円程度。一般的には飲食代の1/3程度とされています。人気の品としては、モノとお菓子などの組み合わせが一般的とされてきましたが、最近はカタログギフトも利用されています。お二人が選んだ心のこもった品は、祝福して下さる方への感謝の気持ちとして相応しいのではないのでしょうか。

◆引出物の品数と内容例

- 一品の場合 記念品
- 二品の場合 記念品、引菓子
- 三品の場合 記念品、引菓子、名披露目（鯉節、赤飯等）
- 四品の場合 記念品、引菓子、鯉節、赤飯
- 五品の場合 記念品、引菓子、名披露目、鯉節、赤飯

◆引出物は地方によってバラエティ豊か

北海道・東北地方

会費制の祝賀会が主流で、引出物は食器類やタオルなど1500円程度の記念品。

北陸地方

豪華でかさのあるものが人気。新潟ではかご盛りを添え、1万円前後のケースも。

関東地方

3～4品で6000円程度が主流。東京では記念品と引菓子の組み合わせが多い。

甲信・東海地方

2人の名前ので送るものがつきもの。名古屋では3～5品で、1万円前後。

近畿地方

2品か5品が主流。滋賀などでは生鯛などをつけ2万円前後の場合も。

中国地方

広島では重ねの折り詰めや新婦のお土産として和菓子などをつけることも。

四国地方

東予地方では「まめに暮らさない」の願いを込め、寿豆という豆菓子をつけることも。

九州・沖縄地方

福岡などは2品で5000円程度。客の多い沖縄では食器などを1品用意します。

結婚祝いQ&A

Q. 金包みの表書きを書く場合気をつけることは？

A. 表には「寿」「御結婚祝」「祝御結婚」などと毛筆か筆ペン、サインペンで書きます。万年筆やボールペンと言った線の細いものは使わないようにします。毛筆の場合は墨の濃さに注意。一般に慶事は濃く、弔事は薄くします。